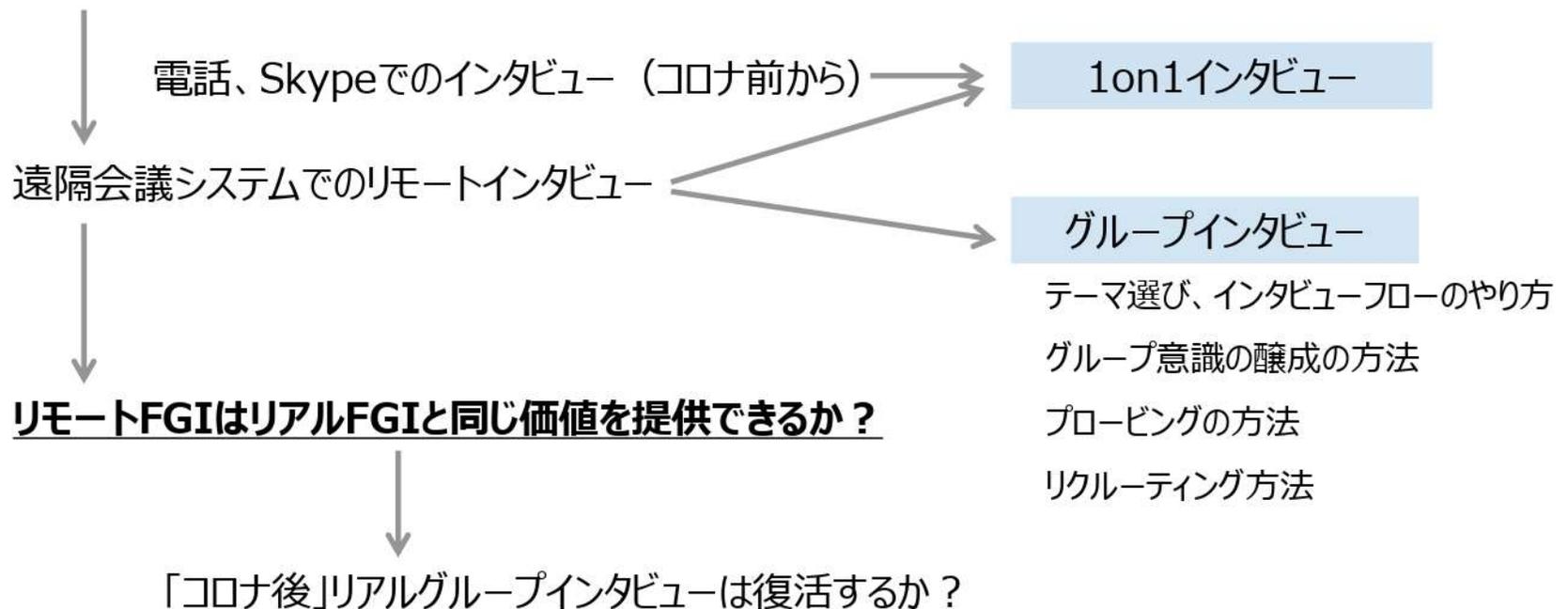


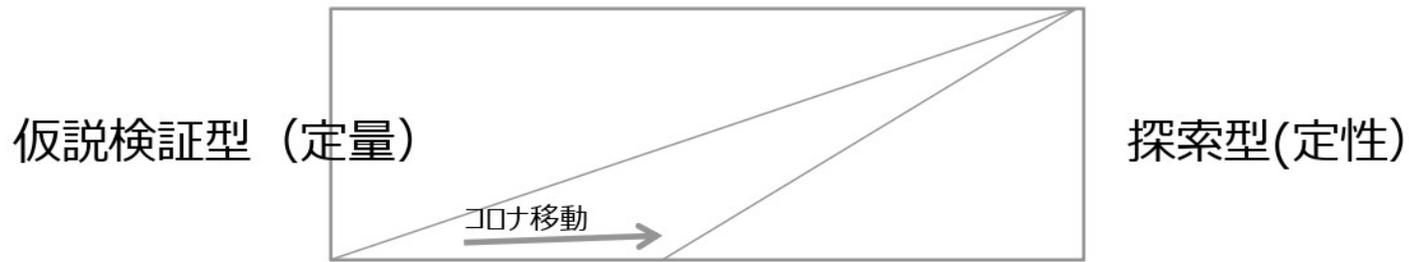
定性調査・インタビュー調査と新型コロナ

ミニシートNo.28と順番が逆になったが、新型コロナ禍が定性調査・インタビュー調査に与える変化（進化圧）を概念的に述べる。
インターネットが「訪問面接調査」を駆逐したような激変が定性調査にも起こるのか。
コロナ後を見すえて、フォーカスグループインタビューの価値を再分析・再確立したい。

インタビュー調査の価値と三密は「底なしに固く」結びついている（回避できない）
ただ、「三密」とインタビュー調査の価値（リスク）分析は不十分（今は気分で自粛）
したがって、自粛が緩和されても即、再開は見込めない（ネコに鈴をつけるのは）



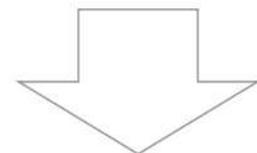
リサーチ（定性）ニーズと新型コロナ



一定程度以上の仮説がある、作れる

ストーリーのある仮説

- = 調査票に展開できる
- = 回答選択肢の網羅性、適切性が確保できる
- = 自由回答欄は少なくできる



ネットリサーチ

仮説を探る、新たな仮説を作る

「つかみ」程度の仮説or何もわかってない

- = ユーザーの生の会話から探索する
- = こちらの提案の生の反応を得る
- = 調査票の回答選択肢をつくる

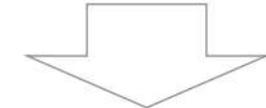
三密の必然性

<あり>

<なし>

リアルFGIの復活

リモートFGI



「場の共有」で得られるテーマ・手法の再整理

ならではの方法論研究

第20回アウラ・コキリコオンラインセミナー・研究会

『FGIの理論とリモートFGIの進め方』

前述のように新型コロナ禍を定性調査・インタビュー調査への進化圧ととらえて、リモートFGIの進め方の研究を行う。
定性調査・インタビュー調査の価値を再構築し、オンラインでも実現できることオンラインでは難しいことを峻別する。
さらにリモートFGI（オンラインFGI）のテクニカルな面の学習・研究を行う。

<プログラム>

1. コロナ禍が定性調査に迫ったこと
2. 定性調査の価値とリアルFGI
3. バンドワゴン効果、集団（両極化）現象
4. 場の共有
5. 共同注視とボディランゲージ
6. リモートFGIの体制作り（エンジニアの役割）
7. リクルーティングの工夫
8. プロービングの方法
9. リモートリエゾンインタビューの提案
10. ZOOM、Teams、GoogIMeetの比較

<実施要領>

- ・5月22日（金）15:00～16:00
- ・ZOOMで実施

<参加要領>

下記に参加申し込みメール（返信で可）



費用（3千円）振込（請求書でも可）



ZOOM招待状受け取り



当日(22日) ログイン